



2016年12月期 第3四半期決算説明資料

2016年10月27日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(東証一部 6464)

免責事項



本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。

本プレゼンテーション資料で使用された財務情報は、別途明記する場合を除き、国際会計基準審議会により策定された国際財務報告基準(IFRS)に基づき作成されております。



目次

1. 2016年12月期第3四半期実績 P3



「一球一心」

一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。



「一精一誠」

誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



1. 2016年12月期第3四半期実績



2016年12月期第3四半期サマリー

工作機械関連の回復遅れや為替換算による影響はあったものの、前年同四半期(累計)に比べて、売上収益及び営業利益率ともに上回る水準を達成

外的要因



株式会社 ツバキ・ナカシマ

内的要因

自動車関連は概ね年初の想定通りに進捗

工作機械関連は年初の予想に反して市況回復遅れ

年初からの円高トレンドによる連結業績へのマイナス影響

4つの戦略的取組を含め、ボールビジネスは順調な進捗

コスト改善やバランスシートマネジメントの強化にも注力

2016年12月期第3四半期決算ハイライト



売上面

- 自動車向けはグローバルで概ね年初の想定通り進捗
- 工作機械関連は年初の予想に反して市況回復遅れ
- ボールビジネスにおける拡販戦略の進捗
- 2016年12月期通期業績予想(2016年8月3日開示)に沿う売上収益を達成

収益面

- 継続的コスト改善の結果、営業利益率は前年同四半期比(累計)0.1%増の19.2%を達成
- 2016年12月期通期業績予想(2016年8月3日開示)に沿う営業利益を達成

キャッシュ面

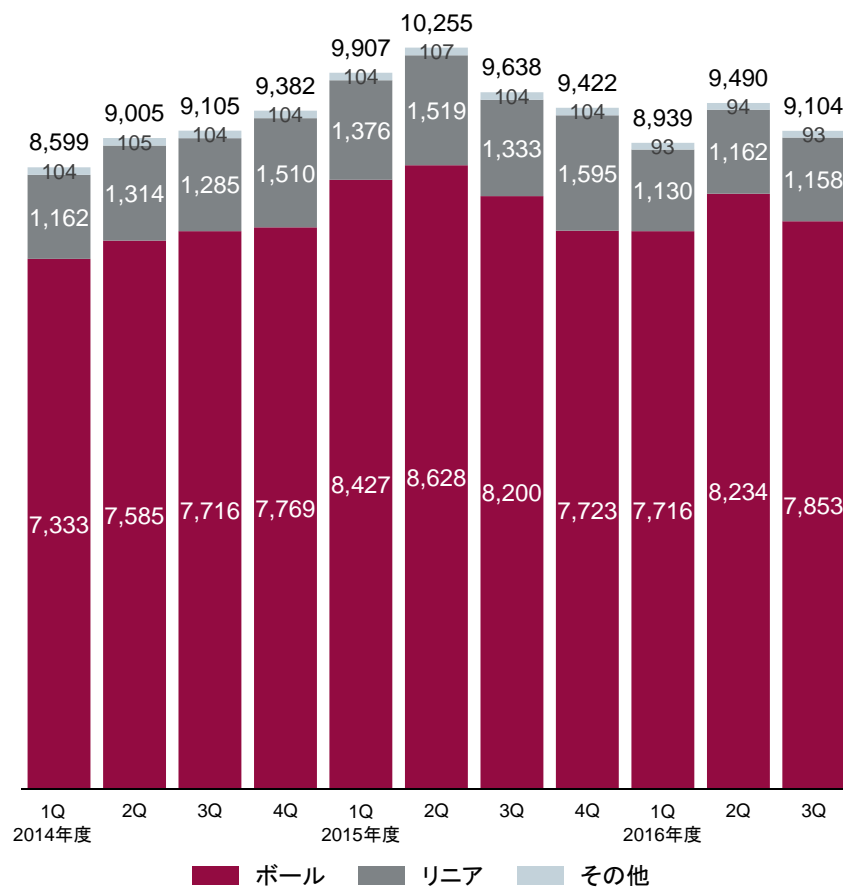
- バランスシートマネジメントの強化によりフリーキャッシュフローを確実に創出
- 2016年10月27日付臨時取締役会で自己株式の取得を決議
- 期末配当予想額に変更なし



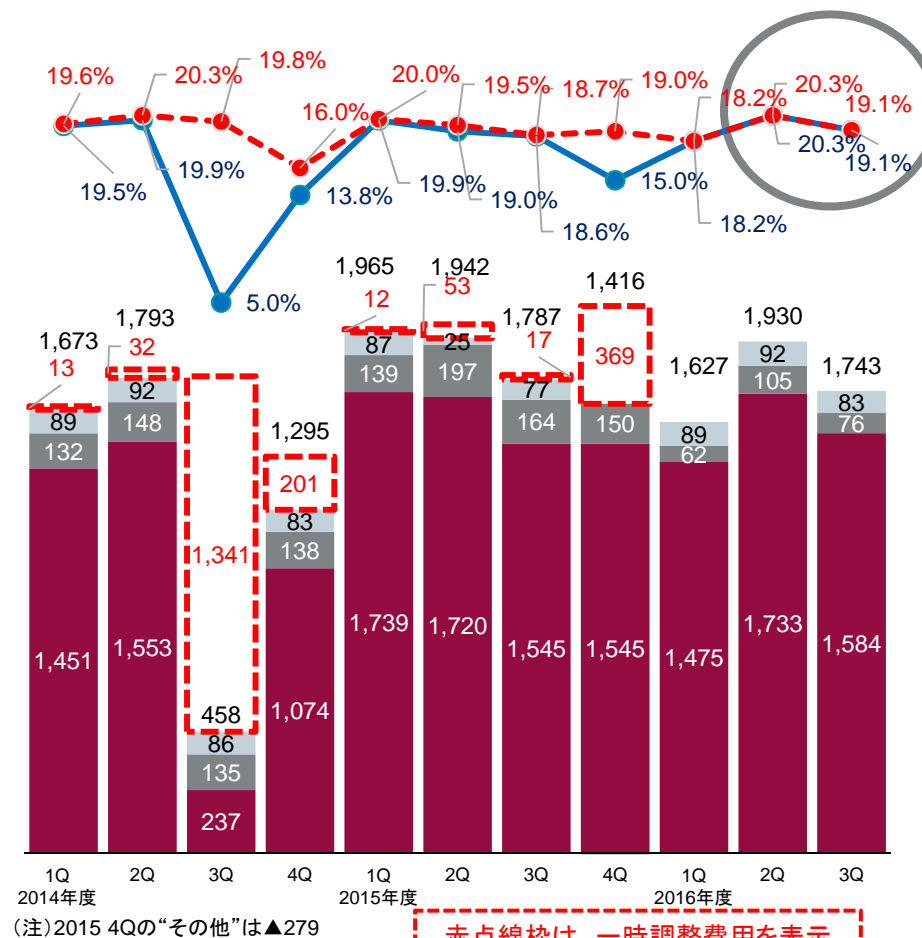
四半期グループ連結業績推移

2016年12月期通期業績予想(8月3日開示)に沿う売上収益、営業利益を達成

売上収益推移(百万円)



営業利益・営業利益率推移(百万円、%)



2016年12月期3Qグループ連結業績 前年同四半期(累計)との比較



工作機械関連の回復遅れはあるものの、為替換算による影響を除いて、売上収益は前年同四半期(累計)0.3%増、営業利益率は前年同四半期(累計)0.1%増を達成

(百万円)

	2015年度3Q 累計	2016年度3Q 累計			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
売上収益	29,767	27,533	▲ 2,316	+82	+0.3%
営業利益	5,694	5,299	▲ 396	+1	+0.0%
営業利益率	19.1%	19.2%	—	—	—
EBITDA	7,033	6,497	▲ 527	▲9	▲0.1%
EBITDAマージン	23.6%	23.6%	—	—	—
税引前利益	5,149	4,161	▲ 973	▲15	▲0.3%
当期(四半期)利益 (※1)	3,812	3,057	▲ 750	▲5	▲0.2%

(※1)“当期(四半期)利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益”を記載しております。

2016年12月期3Qセグメント別売上収益 前年同四半期(累計)との比較



各戦略の進捗により、ボールビジネスは為替換算影響を除いて前年同四半期比(累計)3.3%増となり、工作機械関連の回復遅れによるリニアビジネスのマイナスをカバー

(百万円)

	2015年度3Q 累計	2016年度3Q 累計			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
グループ連結	29,767	27,533	▲ 2,316	+82	+0.3%
ボールビジネス	25,256	23,803	▲ 2,294	+841	+3.3%
リニアビジネス	4,229	3,450	▲ 22	▲ 757	▲ 17.9%
その他	282	280	—	▲ 2	▲ 0.7%

2016年12月期3Q地域別売上収益(ボールビジネスのみ)

前年同四半期(累計)との比較



欧州／アジア地域での拡販は順調に進捗

(百万円)

	2015年度3Q 累計	2016年度3Q 累計			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
日本	9,572	9,353	—	▲ 219	▲ 2.3%
北米	4,653	4,077	▲ 458	▲ 118	▲ 2.5%
欧州	4,722	4,494	▲ 862	+634	+13.4%
アジア	6,309	5,879	▲ 974	+544	+8.6%

(ご参考) 2016年12月期3Q地域別売上収益 前年同四半期(累計)との比較



グループ連結開示セグメントでの地域別売上収益は以下の通り。日本はリニアビジネスの影響によりマイナス幅が拡大

(百万円)

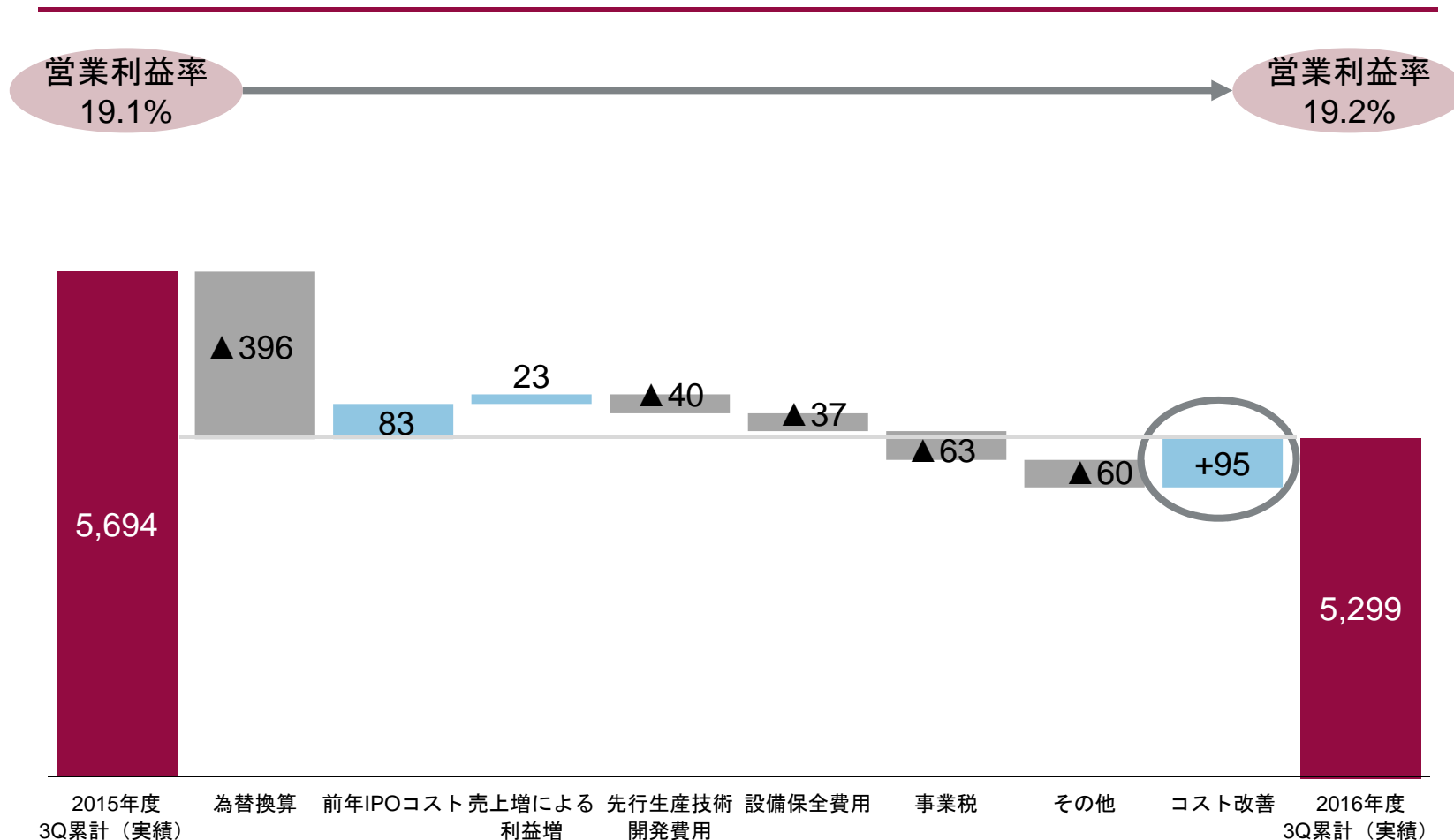
	2015年度3Q 累計	2016年度3Q 累計			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
日本	13,836	12,932	—	▲ 904	▲ 6.5%
北米	4,653	4,077	▲ 458	▲ 118	▲ 2.5%
欧州	4,722	4,494	▲ 862	+634	+13.4%
アジア	6,556	6,030	▲ 996	+470	+7.2%



2016年12月期3Q営業利益増減要因分析

為替換算により円表示額は減少したものの、継続的なコスト改善の結果、営業利益率は前年同四半期(累計)を上回る0.1%増を達成

営業利益(対前年同四半期累計との比較)



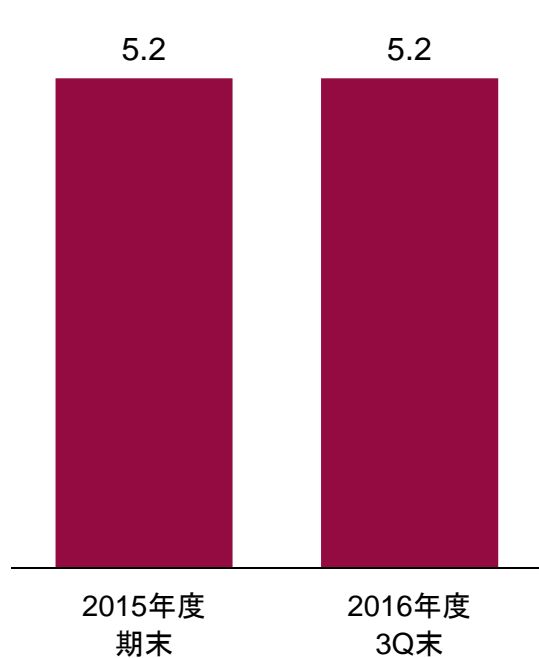


BS／CFにおける業績

BS／CFは継続的に改善し、確実にキャッシュフローを創出

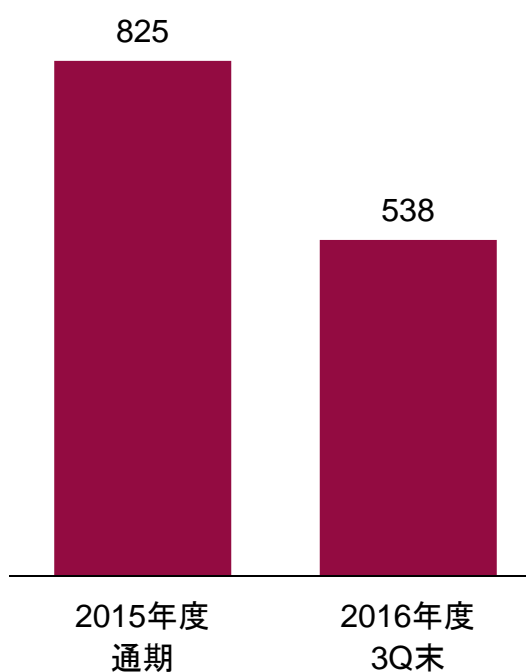
棚卸資産回転月数(月)

■ 在庫コントロールが奏功し、昨年実績並みで推移



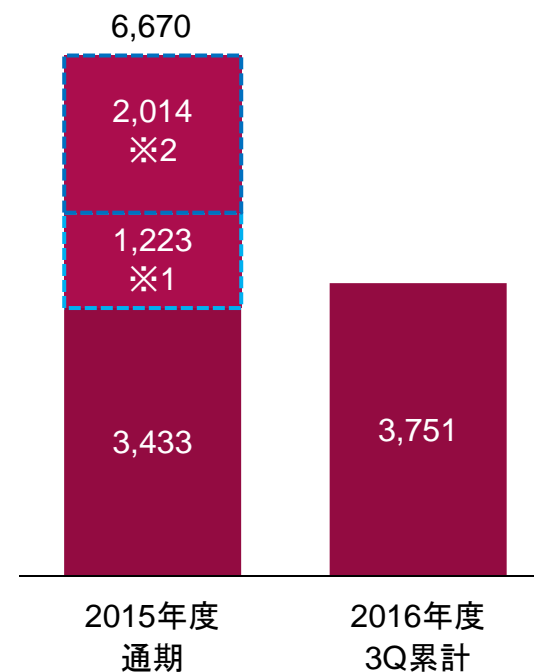
設備投資額(百万円)

■ 設備投資は引き続き適正にコントロール



FCF(百万円)

■ 確実にキャッシュフローを創出



(※1)売掛債権流動化開始初期効果
(※2)在庫適正化開始初期効果
(回転月数0.6ヶ月改善×売上月平均)

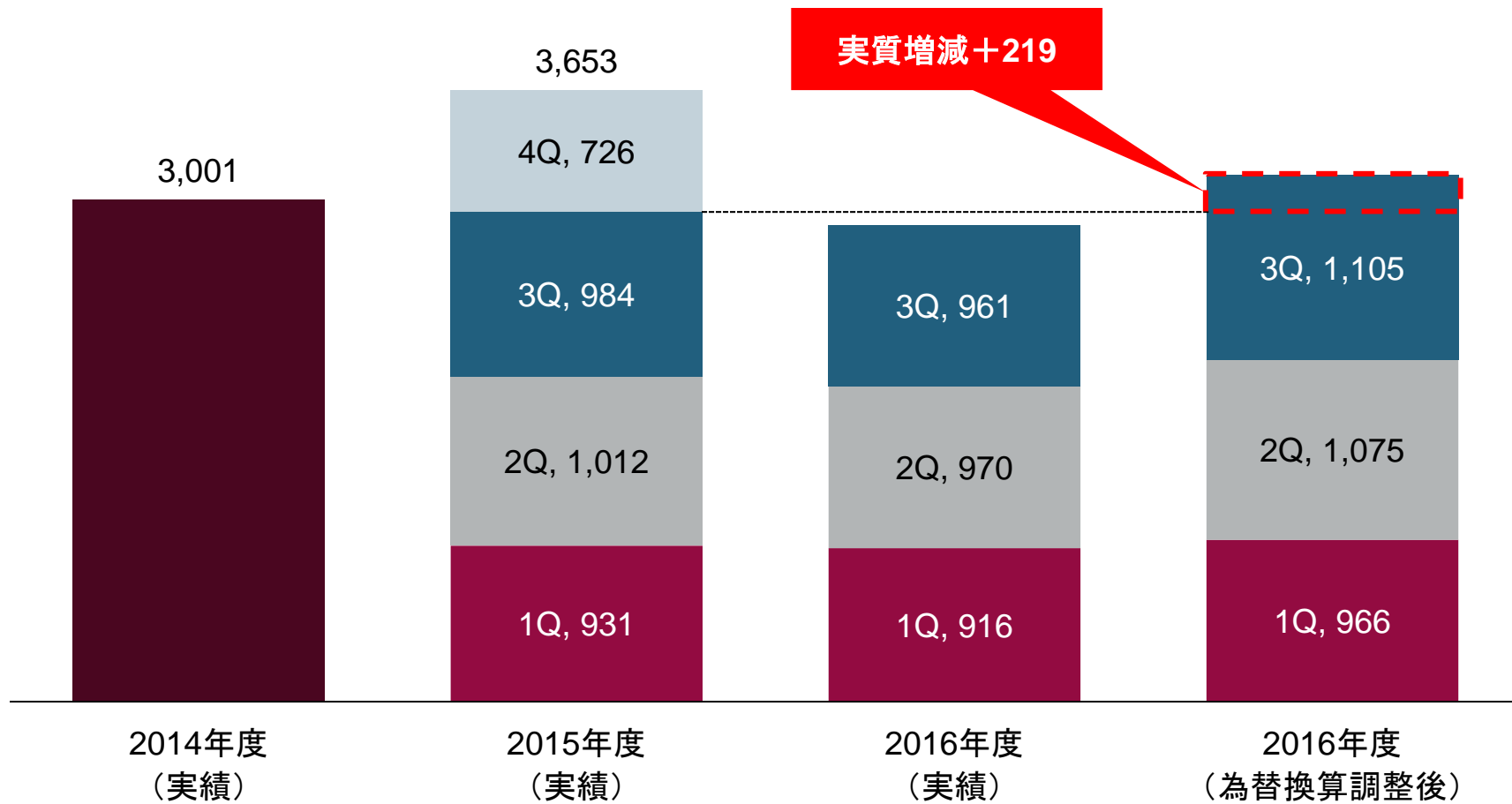
戦略的な取り組みの進捗

①海外のお客様への拡販



為替換算やマクロ影響を受けるも実質的には順調に販売増加

(百万円)



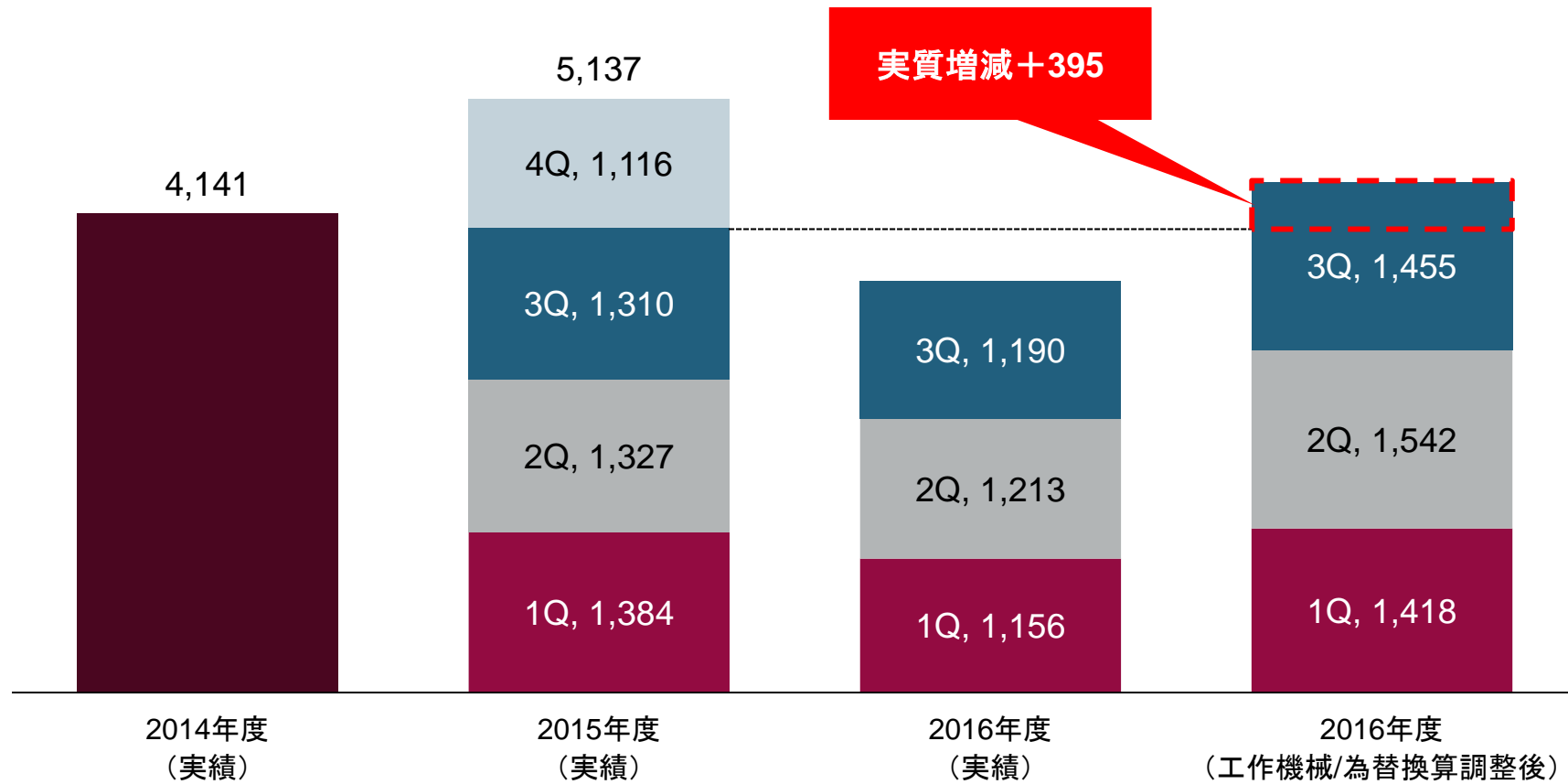
戦略的な取り組みの進捗

②セラミックボールの拡販



為替換算や工作機械向けの需要減少を考慮すれば、実質的には販売増加

(百万円)



(※1) 工作機械需要による影響額は当社推計値となります。

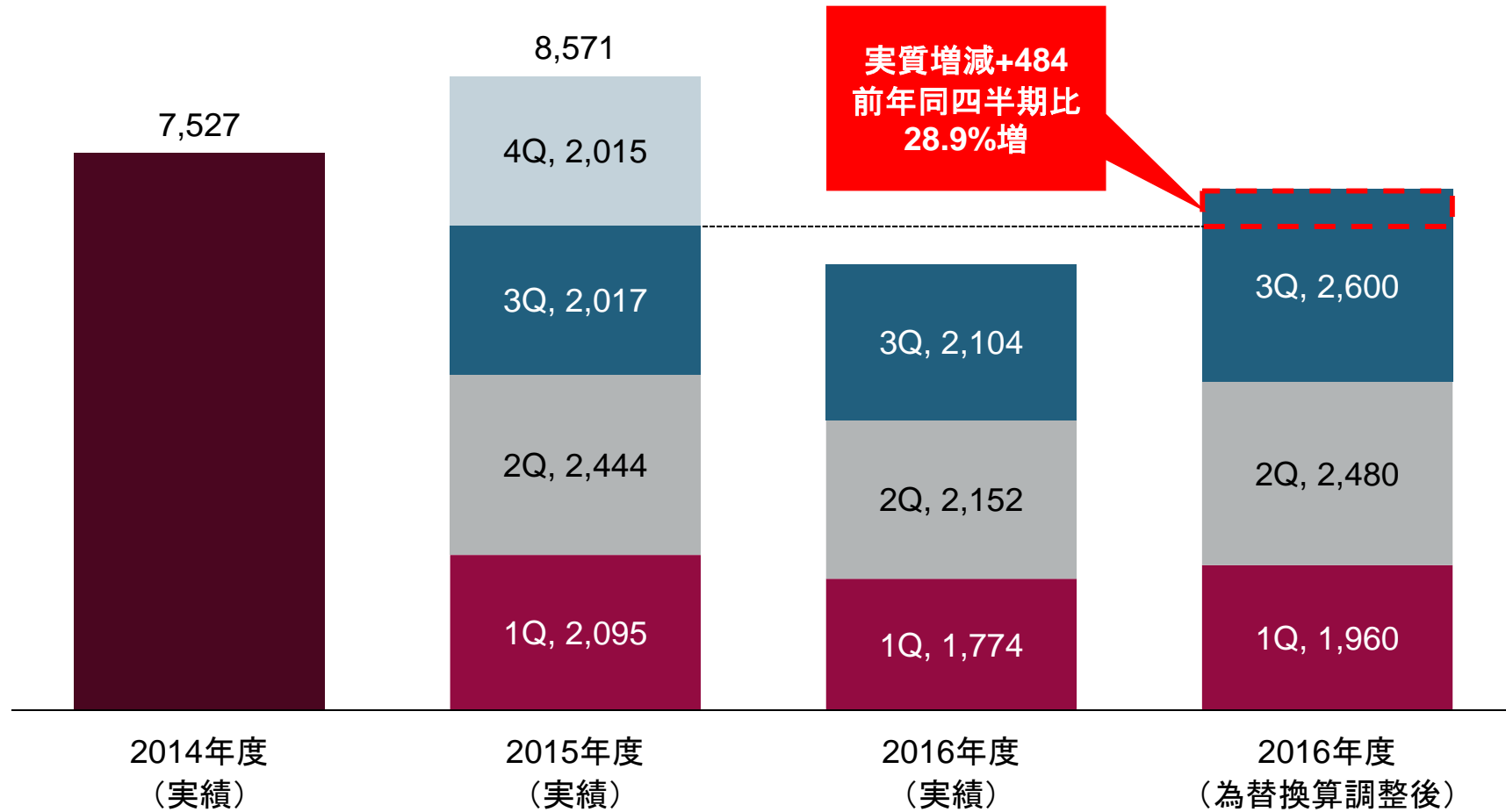
戦略的な取り組みの進捗

③アジア市場での拡販



第2四半期の挽回の流れが継続しており、前年同四半期比実質増加へ

(百万円)



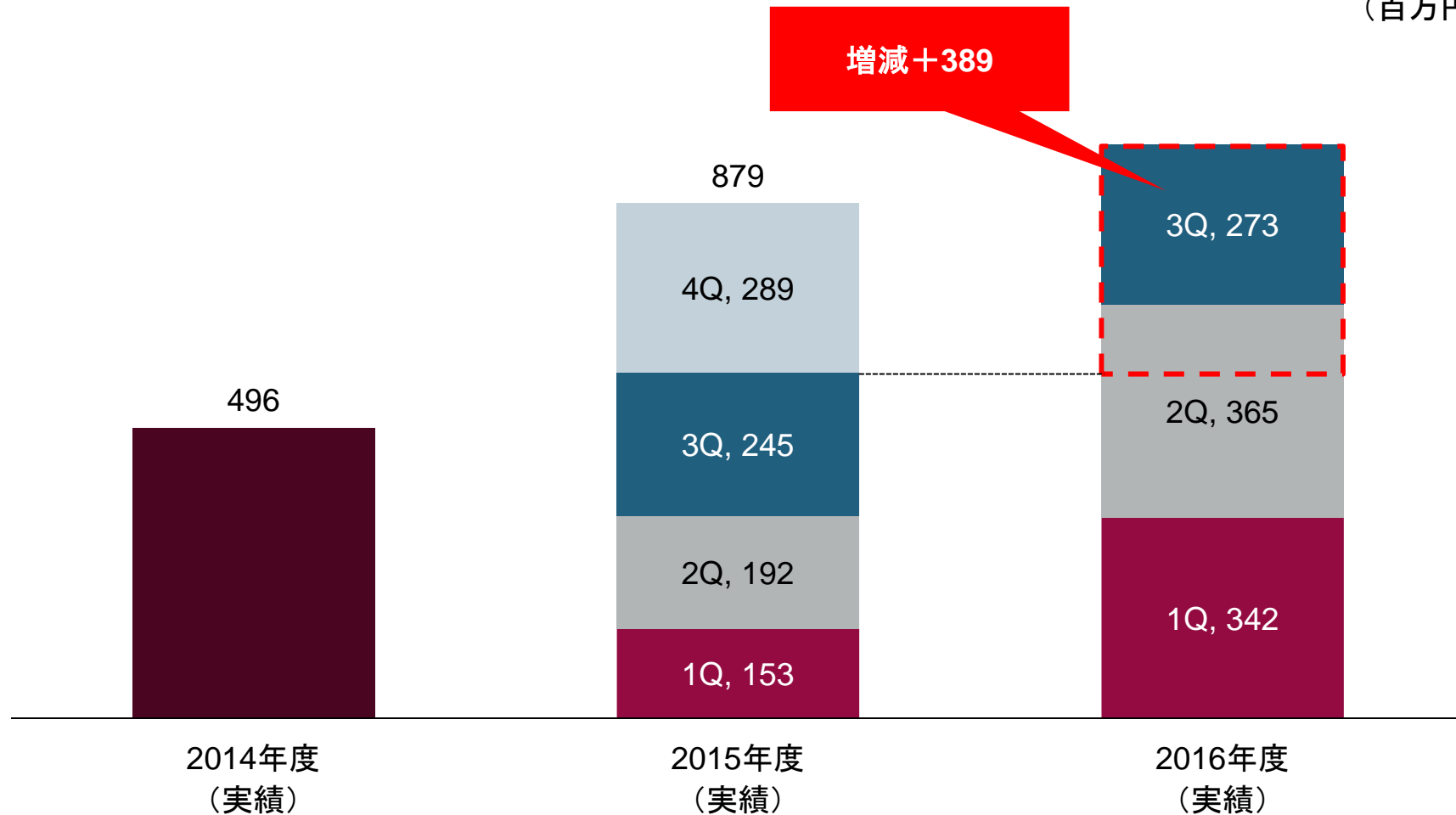
戦略的な取り組みの進捗

④新領域の拡販



新興国、特に中国でのインフラ(光通信網)投資に牽引され成長を維持

(百万円)



(※1)国内販売の為、為替換算による影響はありません。